

## 第26回国際交流の集い開催

茨木市国際親善都市協会主催の「第26回国際交流の集い」が26日、茨木市立生涯学習センターで開催されました。同協会に属するIINのメンバーも計16人がボランティア参加、もちづくり、着物の着付け、受付、物販などを通じて楽しい交流を盛り上げました。

今年もオープニングは若い人たちによる躍動的なダンスから。追手門学院中・高校ダンス部員たちがユニークなデザインの和服で元気なダンスを披露しました。



交流の集いを盛り上げる中・高校生のダンス

主催者の若林三雄・国際親善都市協会会長が挨拶の中で「国籍を超えてめいっぱい交流を深め、楽しんでいただきたい」などと挨拶。福岡洋一・茨木市長は「茨木市の人口は約28万人で、そのうち外国人は3600人だが、その数は急速に増えています」と国際化が進んでいることを紹介しました。

次いで、着物姿も交えた外国人による日本語スピーチコンテストと英語スピーチ大会優勝者によるスピーチの発表がありました。

日本語スピーチでは海外からの留学生や近隣在住の方々7人が「私の言葉を分かってほしい」「私の日本での成長」「日本が私の家」「日本へきて思ったこと」などのテーマで体験と思いを語りました。日本に来て「違い」を意識され、「比べられる」ことに戸惑いを覚えたことなど、日本人の国際感覚を考えさせられるスピーチもありました。しかし、交流を続けることで、理解し合い、互いに成長してゆく体験談などが印象的でした。「日本に住み続けたい」、「日本にいる外国人を助ける仕事をしていきたい」などと語る人もありました。



幼い子供も日本のもちつきに挑戦

このほか、茨木市少林寺拳法連盟による少林寺拳法演武、南京玉すだれの演技などが続きました。

講演したのはインド人の親日家、サニー・フランシスさん。「ここがへんだよ日本人」(TBS)などテレビやラジオ、講演などに活躍中ですが、バブル経済下の34年前に来日したときは外国人であるため、なかなか家を貸してもらえなかったことなど異文化ゆえに戸惑

外国文化紹介ブースには多数の見学者が



IINではもちづくり(上)、着付け(真ん中)、受付、物販(下)に協力しました



った話を、大阪弁でユーモアたっぷりに語りました。最後に全員参加のじゃんけん大会があり、勝った人たちに賞品がプレゼントされました。

交流会では、外国人や子供も交えた恒例のもちつき体験。また、ホール内では中・高校生などが、テーマごとに5つのブースを設け、集まった見学者にスライドや展示物で説明や実演を行いました。各ブースのテーマは外国文化紹介(実用日本語学習会)▽SDGs(持続可能な開発目標)体験(追手門学院中・高校)▽書道(春日丘高校)▽折り紙(茨木高校)▽科学実験(早稲田摂陵中・高校)でした。

IINのメンバーは受付で日本語と英語で対応、その向かいでは昨年の台風15、19号による被災地支援のための物産品販売の手伝いも。

また、全参加者に食べてもらうもちつきのお湯沸かしと長時間のもち分け。さらに、着付け班は一階の和室で外国人たちに着物の着付を行い、華やかに変身した外国人が国際交流の雰囲気盛り上げました。